仙台市障害者就労支援センター「はたらポート仙台」 第５９号 令和8年1月発行

はたらくネット

広報紙「はたらくネット」では、より多くの方々に障害のある方の就労について理解を深めていただけるように、積極的に障害者雇用に取り組んでいる事業者の取り組み事例を紹介しております。今号では、社会福祉法人仙台市社会事業協会 仙台市沖野老人福祉センターの取り組みをご紹介します。

●社会福祉法人仙台市社会事業協会 仙台市沖野老人福祉センター

取材させていただいた沖野老人福祉センター

法人設立：1928年6月
代 表 者：会長 植木祐子
事業内容：高齢者福祉事業、児童福祉事業、教育事業等
雇用状況：身体障害２名、知的障害2名、精神障害2名

仙台市社会事業協会は、高齢者福祉事業（老人ホーム、デイサービスセンター、訪問介護等）、児童福祉事業（保育園、母子生活支援施設）、仙台理容美容専門学校などを運営しています。

沖野老人福祉センター（以下、「センター」）は、高齢の方々の健康の増進、教養の向上などを目的に様々な事業を実施している施設で、仙台市の指定管理を受けた仙台市社会事業協会が運営しています。

今回は、館長の天野 博美さんにお話を伺いました。

「いつかやりたい」を形に

以前から認知症のある方や障害のある方と一緒に仕事をしてみたいという強い想いを持っていました。館長として赴任して3年目に実際に障害者雇用に向けて取り組み始めました。ただ、自身が採用に関わるのは初めての経験で、「どのように求人を出せばよいのか」「どのような段階を踏めばよいのか」など、分からないことも多く、なかなか一歩を踏み出せずにいました。

そんな中、法人の勧めで受講した「仙台市障害者雇用促進セミナー」が、大きな転機となりました。セミナーを通して障害者雇用の具体的な事例や支援の仕組みを知り、まずは相談してみようと考え、セミナー終了後にはたらポート仙台の職員へ声をかけたことが、障害者雇用に向けた第一歩となりました。

求人周知、職場見学会・職場実習の実施

セミナーで学んだことやはたらポート仙台からのアドバイスを基に、まずは「どのような業務をお願いできるのか」「どのような配慮が必要になるのか」を整理しました。障害のある方を受け入れるにあたり、無理のない形で働いてもらうこと、そして職場全体が安心して受け入れられる体制をつくることを大切に考えました。

その後、はたらポート仙台を通じて就労移行支援事業所（※１）へ求人周知・職場見学会の案内を行いました。センターは公共交通機関でのアクセスが決して良いとは言えない立地であることから、できれば近隣に住んでいる方を採用したいと考えていました。障害のある方にとって、通勤の負担は継続して働くうえで大きな支障となるためです。そうした中で応募してくれたのが、センターの近くに住む A さんで本当にありがたいご縁でした。見学や実習を重ねる中で、A さんの人柄や仕事への意欲、通所していた就労移行支援事業所での取り組みなどを丁寧に確認しながら

採用を決定しました。採用にあたっては、「最初から完璧を求めないこと」「できることから少しずつ広げていくこと」を職場内でも共有し、支援者の方とも連携しながら受け入れ準備を進めていきました。こうして、センターにとって初めてとなる障害者雇用がスタートしました。

<採用までの流れ>

業務設定 環境調整 ▶ 求人票作成 ▶ 求人周知 ▶ 職場見学会 ▶ 職場実習 ▶ 採用面接 ▶ 採用

※はたらポート仙台では、採用活動のご支援を行っております

職場での工夫

お話を聴かせていただいた天野さん

業務を通して本人と関わる中で大切にしてきたことは、「本人に合わせる」という視点です。

業務用掃除機の吸引力が本人にとっては強過ぎて作業の負担になっていた時には、家庭用の掃除機を導入しました。「言葉だけでは分かりづらい」という本人の要望を受け、業務マニュアルを作成するなど、具体的な配慮を重ねてきました。

業務内容についても、当初 A さんにお願いする業務は清掃や環境整備が中心になるだろうと思っていましたが「できれば利用者さんと関わる仕事をしてもらいたい」という思いから、受付業務にも挑戦してもらうことにしました。受付業務をお任せすることには不安もありましたが、周囲の職員の配慮とサポートのもと、実際に取り組んでみたところ、教えたことを一つひとつ丁寧に覚え、自分の仕事として着実に身につけていく A さんの姿が見られました。現在では、受付業務をはじめ、浴室の片付けや清掃、行事の準備、さらには PC を使った掲示物の作成など、幅広い業務を担い、日々の業務を支える大切な存在となっています。さらには、玄関清掃を週に 1 回自主的に行うなど、自分で考えて行動する姿も多く見られるようになり、成長の積み重ねを職員一同実感しています。

勤務時間については、1 日 4 時間勤務からスタートし、現在は 5 時間まで延ばしています。本人の自信や体力に合わせて、無理のないペースで担当する業務を少しずつ広げています。

また、毎月の職員会議では本人の近況や作業の中で発見した得意・不得意を共有し、対応について意見交換を行っています。最初は A さんへの対応に戸惑う職員もいましたが、A さんの「教えられたことを誠実に行う姿」や「利用者様への丁寧な対応」を見るうちに、本人への理解が深まっていきました。

A さんは障害の特性から言葉での返答に時間がかかる場面もありますが、それは本人が内容を理解しようと考えている時間であることを職員間で共有しています。一方的に判断するのではなく、互いに歩み寄る姿勢を大切にしながら関わっています。A さんの良いところは、こちらがきちんと話をすると、次からの行動にしっかり反映されるところです。返答の仕方についても、少しずつ変わっていくのではないかと思っています。

こうした業務の定着を支えているのが、業務日報と目標設定の仕組みです。勤務時間を 5 時間に変更したタイミングから、業務日報の記入を開始しました。業務日報には、その日に行った業務と感想を記載してもらい、担当職員が確認のうえコメントを添えています。「できた・できなかった」をお互いに明確にすることで、振り返りがしやすくなり、業務への見通しを持てるようになりました。

また、目標は 3 か月ごとに設定し、「できたこと」「改善したいこと」「次の目標」を本人と一緒に確認しています。当初は無理のない簡単な目標からスタートし、少しずつステップアップしていきました。こうした日々の振り返りと目標設定を通じて、本人の「できた」という実感が積み重なり、自信と意欲につながっています。

月間目標シート（記入例）

7月～9月期：年間と月間の行事の補助作業をする					
月例行事と年間行事の補助作業をしましょう！					
月間行事にあてはまるもの：スッキリ体操、脳いきいきクラブ、おきらくカフェ、わくわくサロン 年間行事にあてはまるもの（7月～9月）：夏まつり、美容講座、健寿を祝う会など					
補助作業するにあたっての自己目標を立てましょう	担当の職員に自分が手伝えることをきく				
達成のためにどんなことをしますか					
	7月	8月	9月		
	各行事の日程と担当職員を確認する	担当職員が行事の時にどんな動きをしているか教えてもらう	自分の当日の業務と照らし合わせてできることをさがす		
月ごとの振り返りをしましょう（振り返り時期：8月、9月、10月の初め）					
	7月の目標に対して	8月の目標に対して	9月の目標に対して		
	日程の確認をできた	一日の動きを知ることができた	グループとして業務に取り組めた		
どのような点が良かったか、もしくは改善を要するか、を考え実行しましょう					
	7月		8月		9月	
	良かった点	改善するところ	良かった点	改善するところ	良かった点	改善するところ
	きちんと確認できた	早めにできなかった	担当の方が前もって準備していることを知った	声掛けが不十分だった	チームワークに気づいたところ	周りを意識する

職場定着の取り組み

就労定着支援事業所（※2）による月１回の支援は、職場にとって不可欠な存在です。職場が直接伝えにくい課題や逆に本人が職場で言い出しにくい悩みを、支援員の方が間に入ることで円滑に解決しています。

「なぜこれができないのだろう？」と不思議に思ったことも、支援員の方を通じて「実はこういうことが苦手」という特性を理解することができ、別の作業に振り替えるなどの適切な配慮が可能になりました。センターで近隣の中学生の職場体験を受け入れた際、生徒さんに作業を教えるＡさんの姿を見て、「教えることが得意」という新たな強みが見つかったのも、支援機関との情報共有の成果です。

さらに、定着支援の面談を通して本人の思いを知ることができました。正直なところ、普段はどんな気持ちで仕事をしているのかなと気になることもありました。表情からはあまり読み取れない部分もあって（笑）。でも、支援員の方から「仕事は楽しいそうですよ」と聞いて、本当に良かったなと思いました。本人の気持ちを支援員の方を通じて知ることで、職員にとっても安心につながり、日々の関わりを見直すきっかけにもなっています。

誰もが役割を持ち、地域で働き続けられる社会へ

障害者雇用に取り組んでみて、もっと早く始めていればよかったと思っています。自分は、大学時代に障害分野を学び、障害のある方と関わる仕事に携わりたいという思いを持ち続けてきた中で、今回の取り組みは自身の原点に立ち返る機会にもなりました。今は高齢の方との関わりが中心ですが、認知症があっても、障害があっても、同じように安心して生活できる地域をつくりたいという思いは変わりません。社会福祉法人として、地域の中でそのお手伝いができたらと思っています。若年性認知症の方を含め、短時間雇用という形であっても、周囲の理解があればセンターでの雇用は十分可能だと思っています。小規模な施設だからこそ、一人ひとりに合わせた関わりができます。その積み重ねが、社会福祉法人としての役割であり、高齢福祉と障害福祉をつなぐ“老福連携”につながるのだと思います。私自身定年まで残された時間は決して長くはありませんが、それまでに、できることを一つでも多く試してみたいと思っています。

※1　一般企業等への就労を希望する障害のある方が就労に必要な知識や技術の向上のために一定期間（標準利用期間は24ヶ月内）訓練を行う障害福祉サービスです。

※2　就労移行支援等を利用して一般企業に新たに雇用された障害のある方に対し、企業訪問等により日常生活面や社会生活面の課題を把握するとともに、企業や関係機関等との連絡調整や課題解決に向けた支援を行う障害福祉サービスです。

令和6年 12 月から働いているＡさんに聞きました

沖野老人福祉センターで働くＡさん

――働き始めたきっかけを教えてください。

高校卒業後に就職を考えていましたが、「自分には何ができるのだろう」と悩む時期が長くありました。当時は自分に発達障害があることも分からず、不安を抱えながら過ごしていました。そのような中で就労移行支援事業所の存在を知り、通い始めました。就労移行支援事業所では、自分ができることを見つけたり人との関わり方を知ったりと社会に出るうえで大切なことを学ぶことができました。それが今の仕事につながっていると感じています。

沖野老人福祉センターの求人は、はたらポート仙台から就労移行支援事業所を通して情報提供があり、紹介してもらいました。もともと祖父母と暮らしていたこともあり、高齢の方と関わることは身近に感じていました。また、就労移行支援事業所に長く通所していたこともあり、人に教える機会が多くありました。その経験が、今の仕事にもつながっているのではないかと思っています。もともと自分は人と関わることが好きだと改めて感じています。

――現在はどのようなお仕事をしていますか？

現在は、受付業務を中心に１時間ごとの浴槽の残留塩素や温度の確認を行っています。休館日前には職員玄関や正面玄関の清掃も担当しています。自分で １ 日の流れを考え、計画を立てながら業務に取り組んでいます。

――仕事をする中で大変だと感じることはありますか？

利用者の方の人数が、日によって大きく違うことです。特に行事やサークル活動がある日は来館される方が重なり、受付対応が一度に集中するため、多くの方に対応しなければならない状況に焦ってしまうことがあります。また、利用者の方以外の訪問が重なった際にも、戸惑う場面があります。

そのような時の対応については、現在も対策を模索しているところです。周囲の職員の方が落ち着いて対応している様子を見て学びながら、「自分も少しずつやってみよう」と思っています。まだ試行錯誤の途中ではありますが、経験を重ねながら、自分なりの対応の仕方を身につけていけたらと考えています。

――仕事の中で嬉しかったことや楽しいと感じることはありますか？

利用者の方が気軽に話しかけてくれることが、とても嬉しいです。最初は、どんな方なのかを覚えるのが大変でしたが、１ 年近く働く中で、利用者の方がどんな目的で来所されるのかも分かってきました。今はそれが楽しいと感じています。

――これからの目標を教えてください。

働き始めて １ 年が経ち、任せてもらえる業務も増えてきました。これからは、言われて動くのではなく、自分から自然に業務に取り組めるようになることが目標です。積極性を高めていきたいと思っています。

――これから働きたいと考えている方にメッセージをお願いします。

最初は分からないことだらけで不安もあると思いますが、職員の方が教えてくれる機会があります。できることは積極的にやってみてほしいです。分からなくても、だんだんできるようになります。自分の中で計画を立てて動くことは、周りの人の助けにもなると思います。

はたらポート仙台

＊ご愛読いただきありがとうございます。ご意見ご感想などございましたらぜひお寄せください（次の QR コードからどうぞ）

発　行：仙台市障害者就労支援センター
（指定管理者：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）
住　所：仙台市泉区泉中央２丁目１－１ 仙台市泉区役所東庁舎5階
電　話：022－772－5517　FAX：022－772－5519
Ｍａｉｌ：hataraport@sendai-wsc.jp　HP：https://www.sendai-wsc.jp